

茨城県立古河中等教育学校

一人一人が輝く活力ある学校づくりのための
基本方策とカリキュラム・デザイン



Sophia project



平成 28 年10月

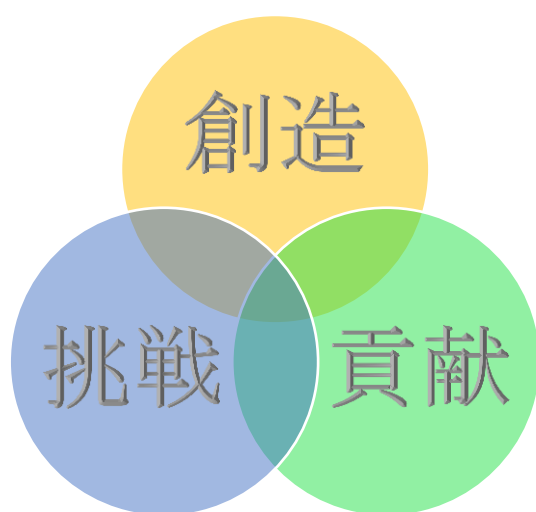
1 教育活動の基本方策

本校では、高校入試のない6年間の教育活動の中で、体験と探究と自立を重視し、子どもたちが主体的に学びに向かえる教育環境を用意しています。

これからの時代を生き抜いていく子どもたちは、答えが用意されていない未知の課題に向き合わなければなりません。それらの課題に取り組むためには、単なる知識の獲得ではなく、主体的に学ぶ意欲のもと、広さと深さを伴う思考力・判断力・表現力を身に付ける必要があります。

本校では、「体験・探究・自立」の教育メソッドのもと、Σソフィア・プロジェクトを通して、次代に必要とされる本当の学力を高め、自ら課題を解決していける能力を育てていきます。

校訓



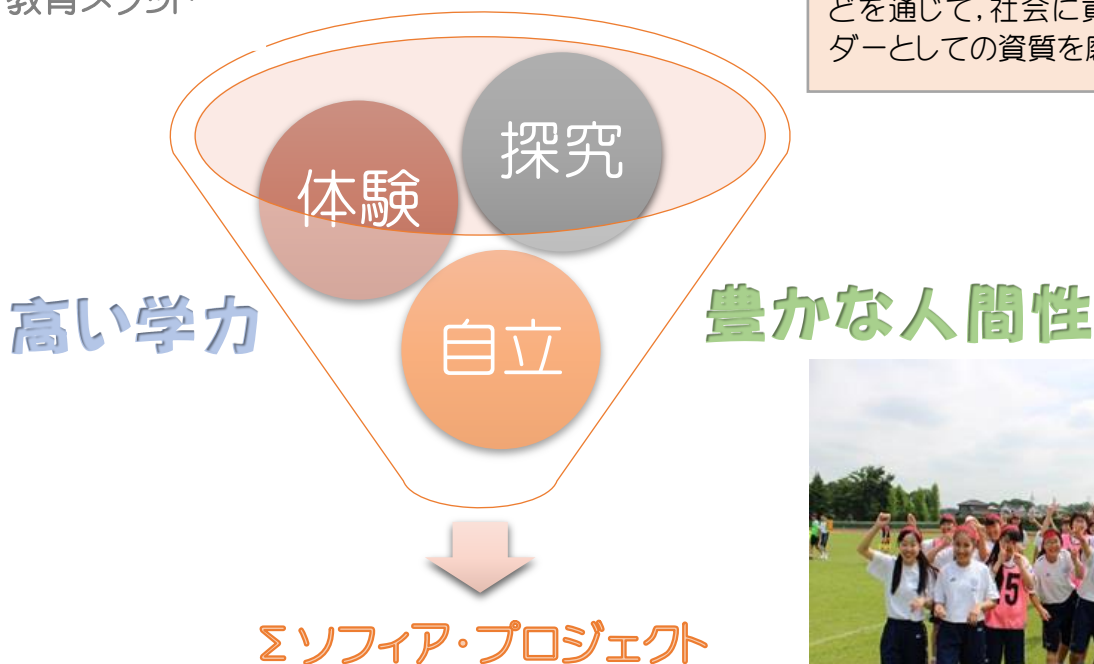
目指す学校像

○6年間の継続的・計画的な教育活動を通じて、一人一人に高い志をもたせ、その実現に向けて知性と人間性を育む。

○科学教育や国際教育を推進し、体験的・探究的な学習活動の展開により、国内外で活躍するための科学的思考力や表現力を培う。

○異年齢交流を重視した学校行事や部活動、ボランティア活動などを通じて、社会に貢献するリーダーとしての資質を磨く。

教育メソッド



2 Σソフィア・プロジェクト

「Σ」とはすべての和を表す記号であり、「ソフィア」は「英知, 知恵」を意味するギリシア語です。

「Σソフィア・プロジェクト」は, 英知の結集により, 未来を創造する総合的な力の育成を図る取り組み全体を表し, リーダー資質の育成, 探究学習, 科学教育, 国際教育, 学力育成の5つの柱から成り立っています。

1 Σアクション(リーダー資質の育成)

豊かな人間性を育むとともに, 社会に貢献し, 次代の日本や世界をリードできるリーダー資質の育成を図ります。

2 Σリサーチ(探究学習)

大学の卒論研究を模した探究活動を行い, 興味・関心に基づき意欲的に学びを深めることで, 課題解決能力を育成します。

3 Σサイエンス(科学教育)

大学や研究機関と連携した体験活動を行い, 科学に対する興味関心を喚起し, 科学的な視野を広げます。

4 Σコミュニケーション(国際教育)

国際人として活躍できる資質を育成するため, 英語による表現活動や国際交流活動によって, 国際理解能力や発信力を養います。

5 Σアカデミア(学力育成)

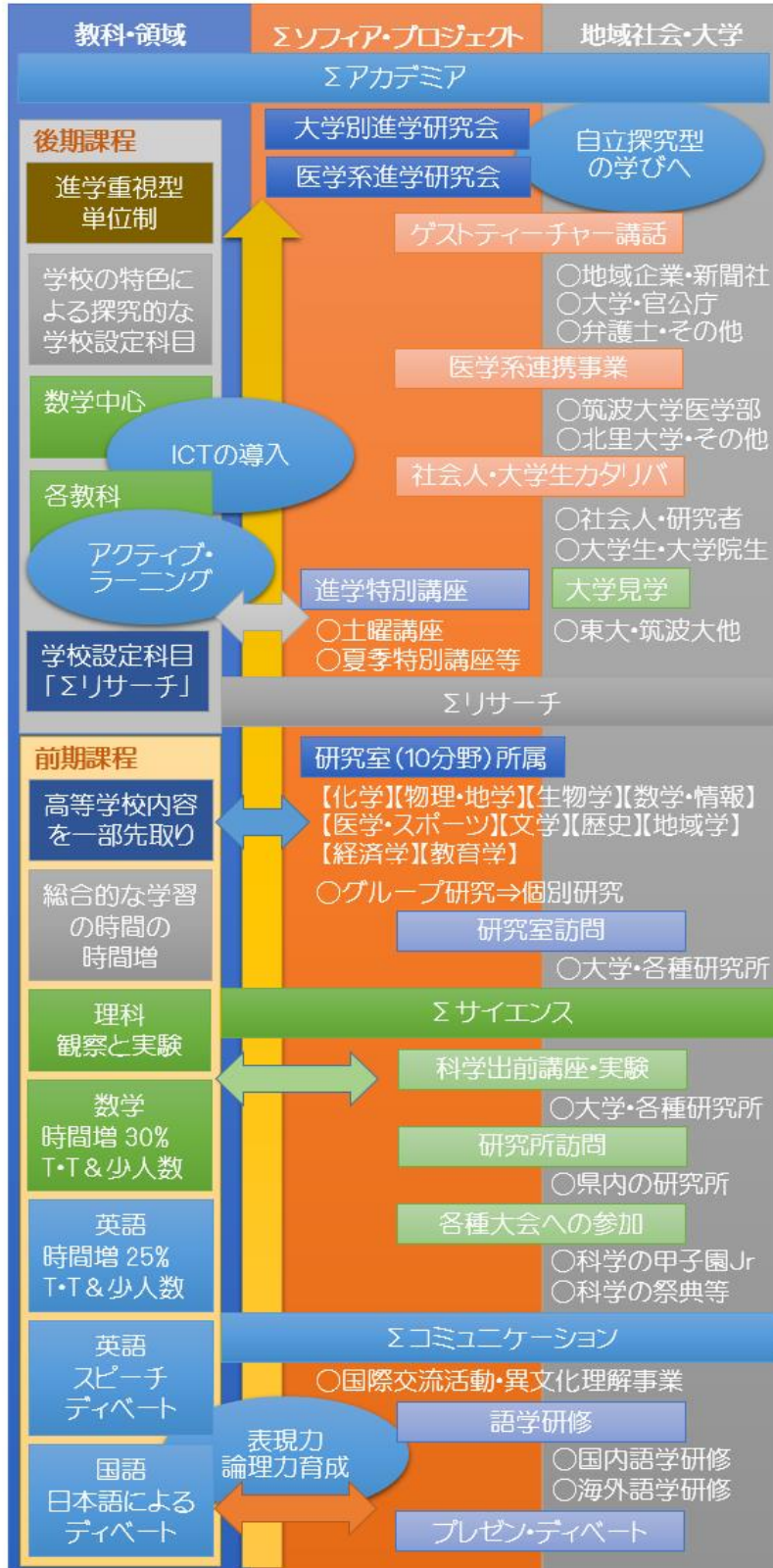
主体的に学ぶ意欲のもとで, 思考力・判断力・表現力を培っていきます。6年一貫教育の特色を生かして, 難関大学や医学部への進学を可能にする高い学力を育みます。



3 高い学力を育むカリキュラム・デザイン

「Σソフィア・プロジェクト」によって、地域社会や大学・研究所と連携しながら、教科横断的な取組を実施しています。また、アクティブ・ラーニングを導入し、主体的・対話的で深い学びを目指しています。

最終的には、自立探究型の学びを身に付けることで、いろいろな課題に対応できる力を養います。



【教科横断的な取組】

- ソフィア・プロジェクトを柱として、各教科の特性を生かした特色ある取組を実施
- 「総合的な学習の時間」を増やし、体験活動や探究活動に取り組む時間を確保
- 論理的な思考力と表現力育成のためのディベートへの取組(国語・英語中心)
- 科学教育の基礎・基本としての理数教育の充実と観察・実験による科学への興味・関心の喚起(理科・数学)
- 探究活動を中心とする学校設定科目の設置(「Σリサーチ」等)

【アクティブ・ラーニング】

- 各教科の特性に応じたアクティブ・ラーニングの導入による主体的・対話的で深い学びへの誘い

【ICTの導入】

- 数学を中心とするICTの導入により、アクティブ・ラーニングを推進

【探究活動の重視】

- 10分野の研究室を設置し、興味・関心に基づく探究活動と「深い学び」の体験

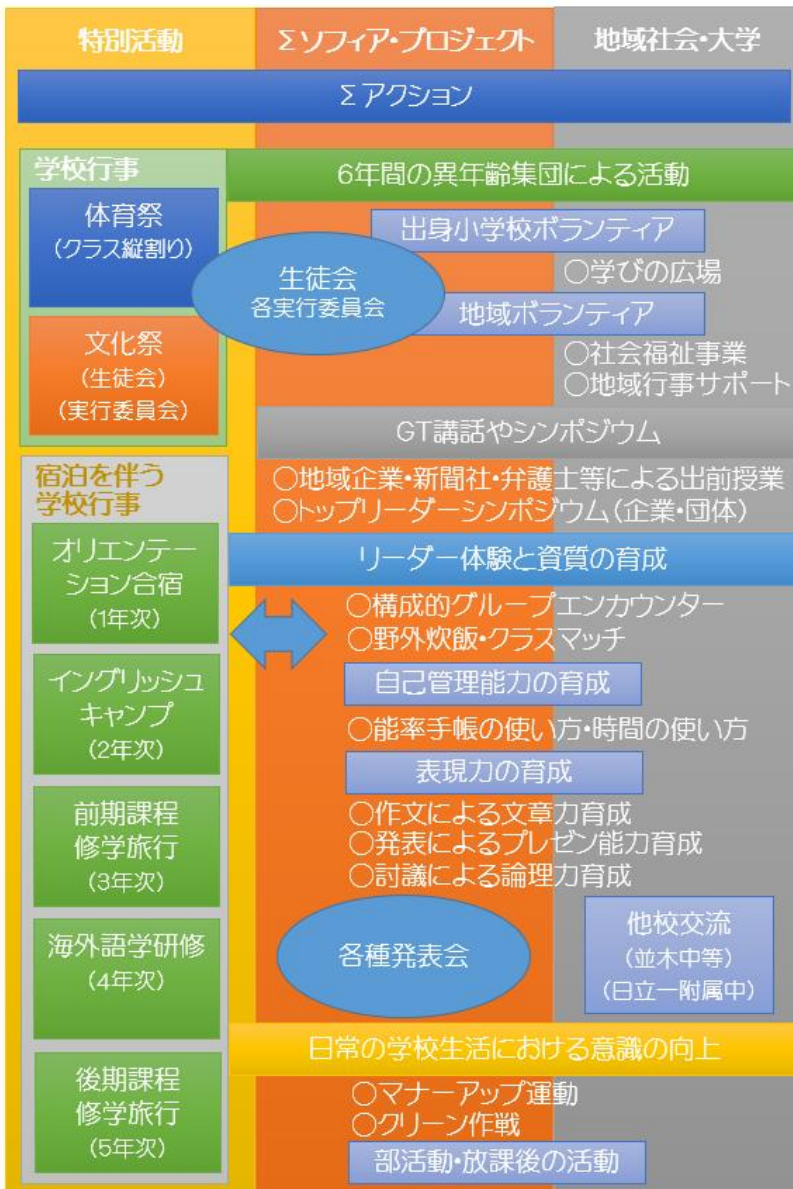
【社会に開かれた教育課程】

- 地域資源・地域人材を活用した教育プラン
- 大学や研究機関との連携による「本物に触れる」体験
- 学んだ英語が実際に通じるという体験

4 豊かな人間性とリーダー資質の育成

学校行事における自主的な活動と主体的な運営をサポートします。失敗を恐れず、自分たちの手で創り上げていく喜びを体験することはとても大切なことです。

豊かな心は人とのふれあいの中で育れます。子どもたちには6年間を通して、多くの友人と切磋琢磨しながら広い視野と豊かな人間性を培い、社会に貢献できるリーダー資質を身に付けてほしいと思います。



【多様な異年齢集団の活動】

- 年長者が自然とリーダーシップを発揮できる環境
- 社会の縮図としての学校を通して、未来に向かわせるための取組
- 上級生による学習活動や学校生活への導き

【各種ボランティア活動】

- 社会や周りの人々に貢献する心の育成と「在り方・生き方」の考察

【キャリア教育】

- 将来を生き抜く力の育成
- 人間関係形成
- 自己実現

【ガイダンス機能】

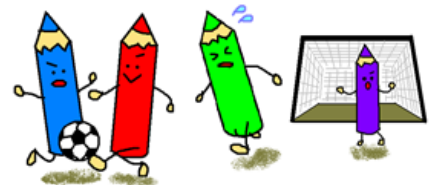
- オリエンテーション合宿による集団への所属感と協働性の育成
- 能率手帳による自己管理能力の育成

【リーダー体験と資質育成】

- 自発的・自治的な集団活動の形成や協働による運営
- 相互理解を重視する態度や表現力の育成
- 主体的で対話的な取組を通して行う協働作業

【部活動・放課後の活動】

- 合意形成を図る力、責任ある行動をとることができる力の育成
- よりよい生活を協働してつくろうとする態度の育成
- 自己の役割や責任を進んで果たすことができる力の育成



5 教育課程

【平成28年度前期課程の例】

<週あたり33時間相当>

	第1学年	第2学年	第3学年
1	国語	国語	国語
2	4	4	3+1
3			
4			
5	社会	社会	社会
6	3	3	4
7			
8	数学	数学	数学
9	4+1	3+2	4+1
10			
11			
12			
13	理科	理科	理科
14	3+1	4	4
15			
16			
17	音楽 1.3	音楽 1	音楽 1
18	美術 1.3	美術 1	美術 1
19	保健体育	保健体育	保健体育
20	3	3	3
21			
22	技術・家庭	技術・家庭	技術・家庭
23	2	2	1
24	英語	英語	英語
25	4+1	4+1	4+1
26			
27			
28			
29	総合	総合	総合
30	1.4+1	2+1	2+1
31			
32	道徳 1	道徳 1	道徳 1
33	学活 1	学活 1	学活 1

○前期課程では、標準時数より4時間多い週あたり33時間相当の授業を行います。

○体験活動を充実させ、基礎・基本の確実な定着を図るとともに主体的に取り組む態度や思考力・判断力・表現力等をより一層育成するために、授業時数を週あたり4時間相当増やしました。時間増の教科を含む全教科・全領域において、「生きる力」をはぐくむ上で大切な資質をより一層向上させます。

↑3年次の国語が標準より1時間相当増加しています。各教科につながる思考力や表現力の向上を図ります。

←[網掛け(斜線部分)]が増加時数分となります。

数学(科学教育の基本)と英語(国際教育の基本)は各年次とも週5時間相当の授業を実施します。

←1年次の理科が標準より1時間相当増加しています。科学に関する興味・関心を持たせるため、観察や実験を増やします。

←英語によるコミュニケーション能力の育成に努めます。各年次とも週5時間相当の英語の授業があります。

←Σソフィア・プロジェクトによって体験的・探究的な活動を行います。

※H29年度から授業時間の割り振りが変更されます。

後期課程(平成26年度入学生以降の予定)

< 進学重視型 単位制 >

年次 単位数	4年	5年		6年					
		文系		理系	文① <small>難関国公立大</small>	文② <small>国公立大</small>	理① <small>医学部 難関国公立大</small>	理② <small>国公立大</small>	
1	国語総合 5	現代文B 2		現代文B 2	現代文B 2	現代文B 2	現代文B 2		
2									
3		古典B 3		古典B 2	古典B 3	古典B 3	古典B 2	古典B 2	
4									
5				世界史A 2		地理B 2	地理B 2		
6	現代社会 2	世界史B 4			世界史B 4	世界史B 4			
7				地理B 2				*地理特講 1	*地理特講 1
8									
9	数学I 3					数学Ⅲ 5	数学Ⅲ 5		
10		日本史B 4	地理B 4	数学Ⅱ 4	日本史B 4			地理B 4	倫理 2
11	数学A 2								
12									
13	物理基礎 2	4	4	数学B 2	4	4	*数学特講Ⅱ 2	*数学特講Ⅰ 2	
14									
15	生物基礎 2	数学Ⅱ 3		化学基礎 2	数学Ⅱ 3	数学Ⅱ 3	化学 5	化学 5	
16									
17		数学B 2		物理 3	生物 3	数学B 2			数学B 2
18	体育 3					*化学探究 2	*化学探究 2		
19		化学基礎 2		*自然科学探究 1					
20	保健 1								
21	音楽 I 2	美術 I 2	体育 2	体育 2	*物理探究 2	*生物探究 2	物理 3	生物 3	
22							物理 3	生物 3	
23			保健 1	保健 1	体育 2	体育 2	*自然科学探究 1	*自然科学探究 1	
24	コミュニケー ション 英語 I 4						体育 2	体育 2	
25									
26									
27									
28	英語 表現 I 2						コミュニケー ション 英語Ⅲ 4	コミュニケー ション 英語Ⅲ 4	
29									
30	家庭基礎 2	社会と 情報 2		社会と 情報 2	英語 表現Ⅱ 2	英語 表現Ⅱ 2	英語 表現Ⅱ 2	英語 表現Ⅱ 2	
31	*Σリサーチ 1								
32	総合(道徳) 1	総合 1		総合 1	総合 1	総合 1	総合 1	総合 1	
33	LHR 1	LHR 1		LHR 1	LHR 1	LHR 1	LHR 1	LHR 1	

* 印が付いた科目は本校の特色による学校設定科目です。

6 現代的な諸課題に対応して求められる学校教育

学校は、今を生きる子どもたちにとって、未来の社会に向けた準備段階としての場であると同時に、現実の社会との関わりの中で、毎日の生活を築き上げていく場でもあります。

学校そのものが、子どもたちや教職員、保護者、地域の人々などから構成される一つの社会でもあり、子どもたちは、こうした学校も含めた社会の中で、生まれ育った環境に関わらず、様々な人と関わりながら学び、その学びを通じて、自分の存在が認められることや、自分の活動によって何かを変えたり、社会をよりよくしたりできることなどの実感を持つことができるようになります。

そうした実感は、子どもたちにとって、自分の活動が身近な地域や社会生活に影響を与えるという認識につながり、これを積み重ねていくことにより、主体的に学びに向かい、学んだことを人生や社会づくりに生かしていこうという意識や積極性につながっていくことになります。



こうした学校での学びの質を高め、豊かなものとしていくことにより、子どもたちは、学習内容を人生や社会の在り方と結びつけて深く理解したり、これからの時代に求められる資質・能力を身に付けたり、生涯にわたって能動的に学び続けたりすることができるようになります。

全ての子どもは、学ぶことを通じて、未来に向けて成長しようとする潜在的な力を持っています。教育を通じて、そうした潜在的な力を引き出し高めていくことができることが大切です。

これからの時代においては、社会が成熟社会に移行していく中で、特定の既存組織のこれまでの在り方を前提としてどのように生きるかだけでなく、複雑で変化の激しい社会の中で、様々な情報や出来事を受け止め、主体的に判断しながら、自分を社会の中でどのように位置付け、社会をどう描くかを考え、他者と一緒に生き、課題を解決していくための力がますます重要となっていきます。



古河中等教育学校が目指す教育とは、Σソフィア・プロジェクトのもと、人間性の育成と高い学力の育成を矛盾なく進めることにあります。学びの目標には、大学受験だけでなく、その先、自分が社会にどのような形でかかわっていくのかまで視野に入れる必要があります。

そのため、本校における学校教育を通して、子どもたちにいろいろなことを体験させ、探究させ、そして自立させることを目指していきます。

本校での体験と探究と自立によって得られる「学びの精神」は、生涯にわたって役立つ重要なスキルとなることでしょう。